仁心看護専門学校　2023年度　学校関係者評価会議報告書

日時：令和6年5月24日（金）15時～16時
場所：仁心看護専門学校　会議室
教職員及び事務

吉牟田　直孝	仁心看護専門学校　校長
冨吉　良子	仁心看護専門学校　副校長
穂山　みどり	仁心看護専門学校　教務主任
上原　啓介	仁心看護専門学校　事務長

出席委員

松下　京子	福山病院　総看護師長
三島　真実	松下病院　総看護師長
徳永　美代子	たちばな医療専門学校　副校長
松下　兼綱	たちばな医療専門学校　事務長
野村　和人	後援会会長

欠席委員

山根　朱美	医療福祉センターオレンジ学園　看護部長
庄田　成伸	南九州病院　看護師

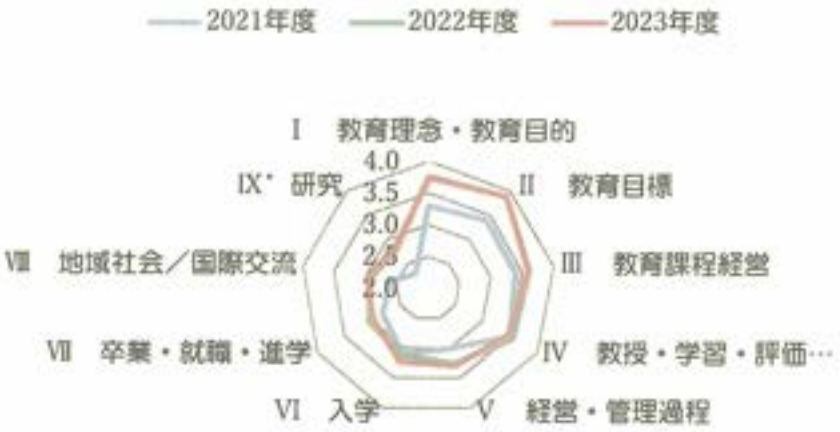
学校関係者委員による評価及び意見

・2023年度の自己評価・自己点検結果に対して、概ね良い評価であるとの意見を得た。
・自己点検項目の研究の項目のポイントが低いことを指摘され、研究への関心や意識を高めることで学生に還元できるのではとの助言をいただく。
・卒業生の状況について
卒業生へのアンケートを実施することで、学生時代に経験を積んでおきたかった技術項目等の情報を得られた。その情報をもとに演習計画を編成し卒業前に修得できるように活かせている。
意見：臨床の場でも技術に関しては経験を積めるように指導を受けながら実施できている。
現在プリセプターやスタッフの指導を受けながら勤務することが出来ている。
新人研修にも計画的に参加できている。
・学生募集について
鹿児島市電内の広告、Instagramの発信、テレビCMの放映をして学校の周知を図っている。
霧島市のホームページから学校がすぐ検索できるようにしている。
今年度より男子学生の枠を外したが応募者は少なく現在の1年生は男性2名である。
高校訪問やガイダンスの実施を行っている。
意見：近隣の学校も入学者は減っている。オープンキャンパスの回数を増やしたらどうか。
また、病院が近いのでOBもオープンキャンパスに参加することもできるのではないか。
職場体験等を利用し中学生への案内もしていく。
学生の確保と、質の向上が課題であること確認した。

2023年度　自己評価・自己点検結果

2024年4月
仁心看護専門学校

自己評価・自己点検結果



評価基準	
4：当てはまる	2：どちらかというと当てはまらない
3：どちらかというと当てはまる	1：当てはまらない

総　括

自己点検・自己評価の結果、3年間の大項目を比較すると2022年度と2023年度は全ての項目で大きな変化はない。2021年と比較するとポイントは高い。

大項目のⅠ～Ⅳについても、近年の評価を上回っている。これは、カリキュラム改正時の見直しが反映されており、教育理念に始まり教授・学習・評価過程までの一連の教育課程運営において整合性があると評価できる。

Ⅵの項目では、前年度よりやや高い。入学生が定員を大きく下回っているが、オープンキャンパスの応募者の増加や近隣の高等学校からの入学者の増加も見られるため、引き続き募集要項の広範囲な配布、高校訪問等で本校の魅力の周知を図っていく。

Ⅷ. の地域社会への働きかけについても、新カリキュラムに「地域を知る」「ボランティア論」の科目を設定したことにより、評価が上がっていると考える。今年度は、「ボランティア実践」の科目も入ってくるため次年度もやや上がるのではないか。

昨年度より新型コロナ感染症も5類感染症へ移行し、入学式・戴灯式・卒業式と学年の節目の行事を保護者参加のもと実施できたことは学生のモチベーション維持に寄与できたと考える。

健康観察記録や学校への報告が学生に浸透していることもあり、新型コロナ感染の感染者の発生はみられたが、周囲への波及はなかった。

臨地実習は5類移行までの長期休暇明けに1週間の学内実習を設けた以外、ほとんどの実習施設で実施することができた。発熱や体調不良等などがあった場合は、検査を実施するなど施設との連携を図り対応した。

2023年度の、看護師国家試験合格率は73%であった。問題形式の変化もあり深く学習し理解していく力が求められている。学生の最終目標を達成できるよう、また、社会に貢献できる人材育成を目指し今後もカリキュラム運営に努力していく。

Ⅰ　教育理念・教育目的

教育理念・教育目的の教育上の特徴と法との整合性は適切であると評価している。理念の「人間愛」「人間尊重」はキーワードとして学生には定着しており、その理念は学校運営の柱と認識できている。しかし、「4．学生の学習指針となっている」や「7．教育環境」「9．教師の教育活動の指針になっている」のポイントが3.5と他に比して評価が低いのは教育理念・目的に学生への具体的教育活動が表せていないことや全員の共通理解が出来ていないためと考える。カリキュラム改正時に教育理念・教育目標の見直しを行ってはいるものの、表現自体はこれまでと同様のため全員で共通理解することが求められる。

Ⅱ　教育目標

教育目標の評価は平均3.9であり、目標設定の妥当性は評価できる。
教育理念・教育目的との一貫性や卒業後の継続教育を示した目標設定については新カリキュラム改正時に見直しがされたことなどから評価が高い。

Ⅲ　教育課程経営

全体的に見ると評価は3.6である。教育課程の編成や教育計画（単位履修方法）、単位認定基準等については3.8、3.7と評価が高い。教員の教育・研究活動の充実や学生の看護実践体験の保障については、3.4と他に比して低い。「41．臨地実習施設の養成所の教育理念・教育目標の理解」や「43．臨地実習指導者の役割の明確性」などが3.0や3.1と低い。各実習前に実習施設との打ち合わせや要項説明を行っているため、引き続き丁寧な説明と指導者と教員の協働体制を整えていく。

Ⅳ　教授・学習・評価過程

教育理念から教育目的・目標、単元への考え方は評価が高く授業内容についても評価が3.5である。授業間の重複・整合性・発展性についても調整できていると評価している。

単位認定の公平性は4.0に近い。

Ⅴ　経営・管理過程

経営・管理過程の中項目の評価は平均3.0～3.6である。施設設備の整備と運営計画と将来構想の項目が3.0と最も低い。設置者の意思・指針や組織体制は3.5～3.6を評価している。

自己点検・自己評価は3.3である。評価はほぼ「やや当てはまる」であり、評価したことが明確にフィードバックできていると実感できていない。

Ⅵ　入学

この数年、入学者数は減少している。しかし、オープンキャンパスを2日間実施することができた。34名の応募があり、当日に4名の欠席があったものの29名が参加しそのうち14名が入学している。また、欠席4名のうち1名も入学している。

昨年は、高校訪問やCM、市電での広報、Instagramでの広告などにより、学校の紹介や魅力の発信を行ってきた。今年度は、卒業校へメッセージを返して連携をとっていく。

Ⅶ　卒業・就業・進学

卒業・就業・進学では、卒業生の就業先との連携を図るシステム作りがなかなかできていないことが評価を低くしている。昨年度は10月に在学中に経験していた方がよいと思う技術や入職後困難に感じた時期や内容についてアンケートを実施し、卒業時の技術到達度においては、チェック方法の見直しを行った。今後技術が経験できるように施設側とも連携していきたい

Ⅷ　地域社会／国際交流

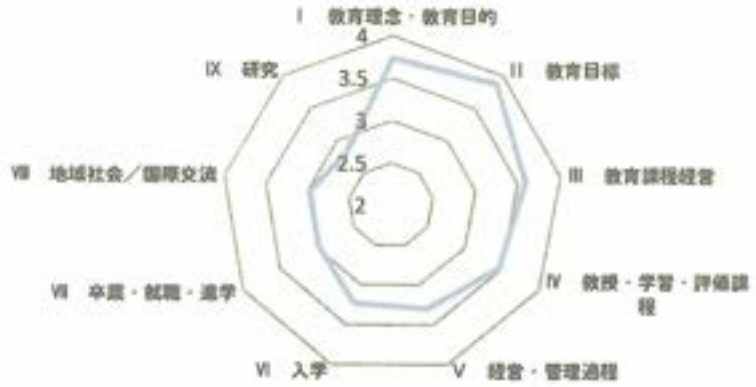
地域社会については例年全体的に評価が低い。昨年度、ピア活動でのボランティアを実践したが、日程調整がうまくできず参加度は少なかった。しかし、今年度はピア活動でのボランティアの方法をグループに捉われないようにしたことや3年生では、ボランティア実践の科目が設定してあることから活動が期待できる。

国際交流については、授業科目の設定は3.0である。今年度より、JICAにも依頼し、国際看護の実際など実際に活動している人とオンラインで学ぶ機会を設けた。帰国学生・留学生の受入れ体制がないために項目によっては2.3と低い。

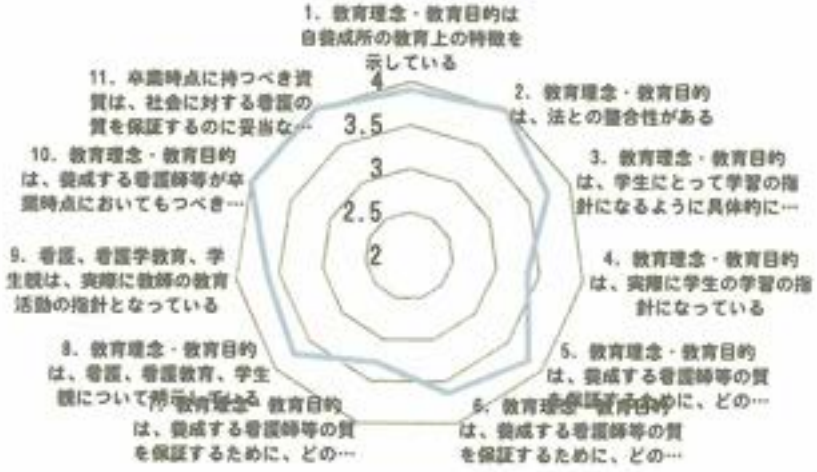
Ⅸ　研究

昨年度の評価は2.8と評価は低い。コロナ感染症が5類に移行したが、感染状況が落ち着かず県内の研修やリモート研修となっていたことが関係している。今年度は、積極的に活用し共有していく。

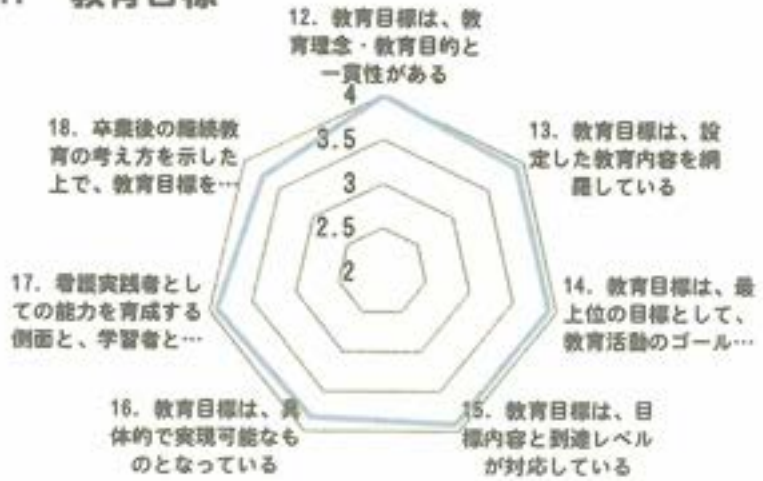
2023年度自己点検・自己評価結果



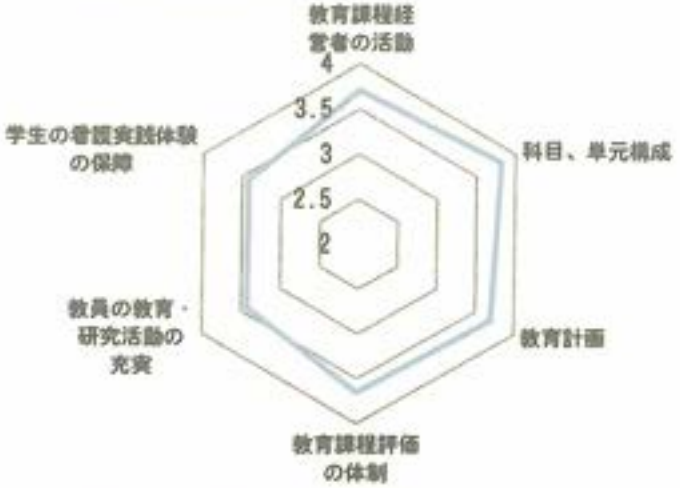
Ⅰ　教育理念・教育目的



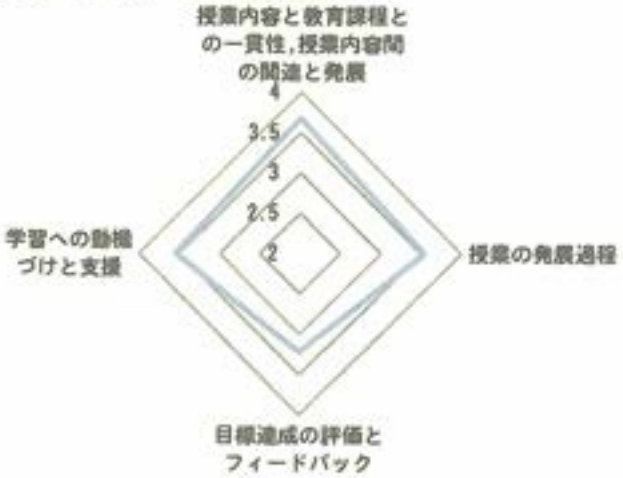
Ⅱ　教育目標



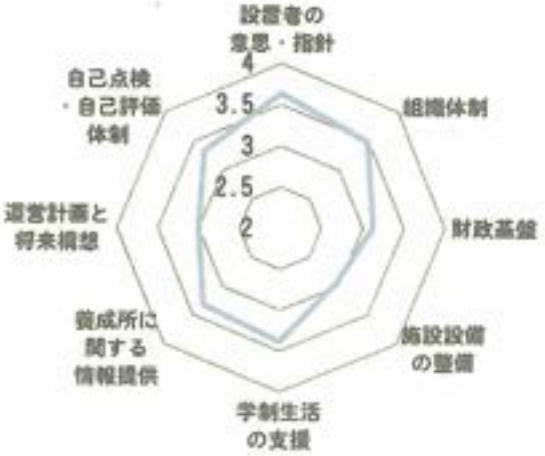
Ⅲ　教育課程経営



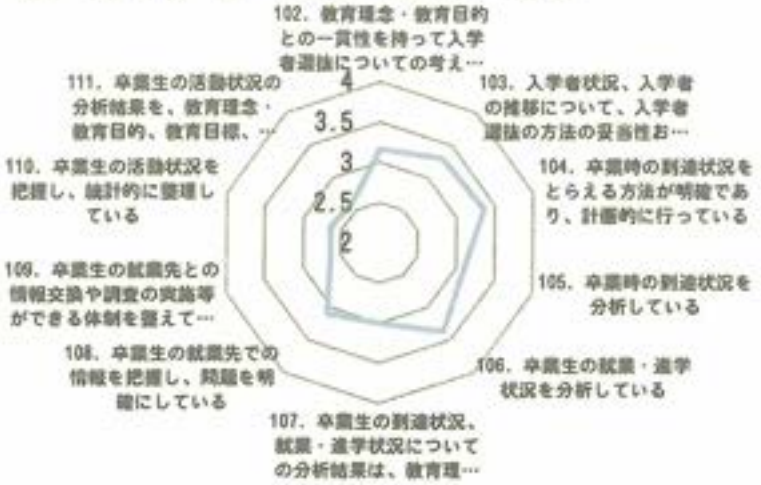
Ⅳ　教授・学習・評価過程



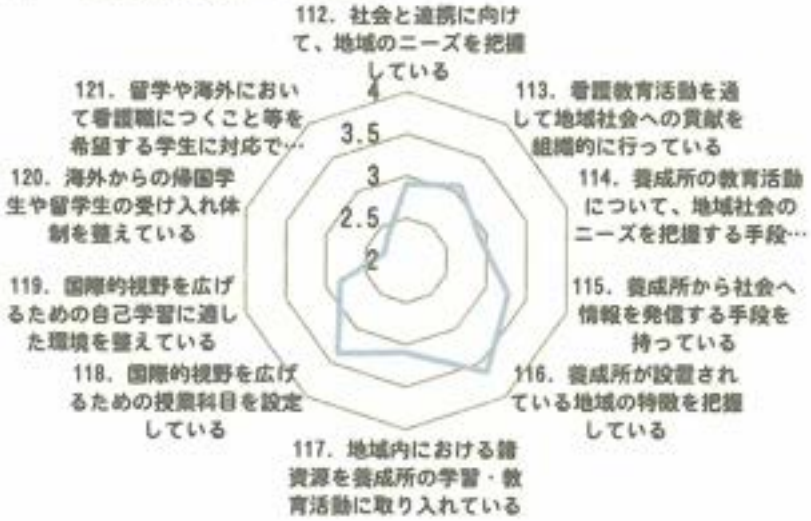
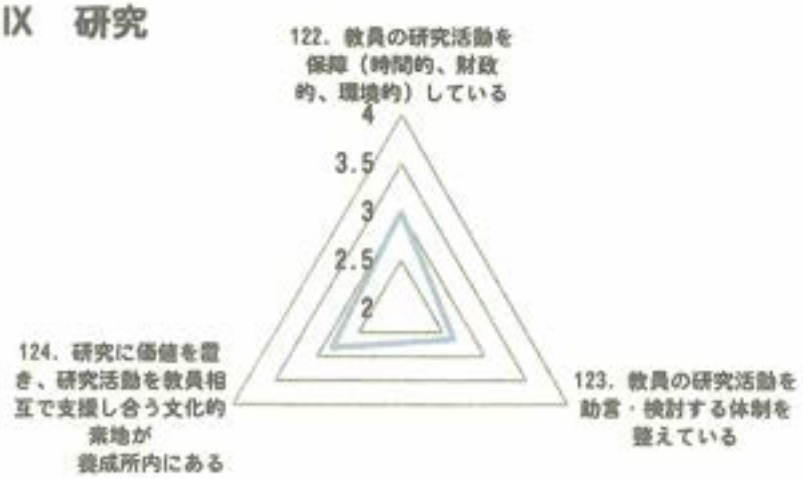
Ⅴ　経営・管理過程



Ⅵ　入学，Ⅶ　卒業・就職・進学



Ⅷ　地域社会/国際交流



Ⅸ　研究